

ビジネスアイデアの概要

医療データの利活用を促進する制度として次世代医療基盤法が整備されているが、オプトアウト形式であるため利用範囲に制約があり、手続きの煩雑さから実運用上のハードルも高い。本事業は、患者が自身の医療データをスマートフォン上で閲覧・管理し、**オプトイン形式**で主体的にデータ提供を行えるプラットフォームを構築するものである。特に医療情報の研究利用が重要な**難病患者を対象とした**プラットフォームを構築する。

ビジネスアイデアを事業化するための課題

- ・ 難病患者がどのような条件で医療データ提供に応じるかの検証
- ・ 企業・研究機関がどのようなデータを求め、実際に購入するかの検証
- ・ これらを検証した上での、医療データ活用基盤を活用したプロトタイプ構築

事業化の見通し

医療データに対する製薬企業・研究機関の需要は既に高く、既存市場も形成されている。患者自身もデータ提供に前向きであることが先行研究・ヒアリングで分かっており、供給側のポテンシャルも高い。現在、基盤技術の開発を進めており、プロトタイプ作成中である。適切な制度設計とデータ提供顧客開拓により、中長期的に持続可能なデータプラットフォームとしての事業化を目指す。

事業者情報

プロジェクト代表：水嶋慎
システム開発代表：上杉正人



ビジネスアイデア概要図等



難病患者が自分の意思で自らの医療データを
研究・新規治療開発の現場に届けることのできる世界へ